

(公印省略)

13病防第14号の7
平成13年10月31日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成13年度病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第8号(11月)を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予報第8号(11月)
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少ない 並 やや少ない 少ない	やや少ない 並 やや少ない 少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	少ない 並 少ない	少ない 並 少ない
レタス	灰色かび病 菌核病	並 並	並 並
野菜共通	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 やや多い やや多い	並 やや多い やや多い

平年値(過去10年間の平均)がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【野菜】

1 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発病株率は平均0.4% (平年：3.4%、前年：0%)であった。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面の病斑の有無を随時確認し、早期発見に努める。

イ できる限り葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

ウ 本病の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

エ 農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。防除薬剤については県野菜病虫害防除基準を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生を認めなかった（発病株率 平年：1.0%、前年：1.1%）。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難なので、発生状況をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。

イ 摘葉された葉に寄生しているハダニは、摘葉後急速に移動するので、ほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し、処分する。

ウ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

3 キャベツのコナガ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、寄生株率は平均1.8%（平年：11.5%、前年：1.5%）であった。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫、蛹及び卵は薬剤感受性が低いので、発生初期にできる限り若齢幼虫を対象に防除を行う。

イ 結球期までに重点的に防除を行う。

ウ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

4 野菜共通のシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 福岡市、朝倉町（2ヶ所）および行橋市の10月2半旬～5半旬間のフェロモントラップによる誘殺数は平均158.3頭（平年：143.1頭、前年：105.3頭）であった。

イ ネギでの10月5半旬調査の結果、被害株率は平均0.7%（平年：0.3%、前年：1%）であった。

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努

- め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。
- イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- ウ ネギの場合、葉身に産下された卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身内に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。
- エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

5 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

- ア 筑紫野市のフェロモントラップによる10月5半旬の誘殺数は337頭（平年：205頭、前年：252頭）であった。（図1参照）
- イ イチゴでの10月5半旬調査の結果、寄生株率は平均1.6%（平年：1.4%、前年：1.4%）、被害株率は平均14.4%（平年：14.0%、前年：16.1%）、キャベツでの10月5半旬調査の結果、寄生株率は平均1.8%（平年：1.9%、前年：0.3%）であった。
- ウ 気象予報では、11月の気温は平年並で、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 老齢幼虫に対しては薬剤の効果低下するので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。
- イ 幼虫が食害するのは主に葉であるが、イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、花らいや果実も食害するので、発生状況については十分注意する。
- ウ ほ場周辺に繁茂した雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。
- エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

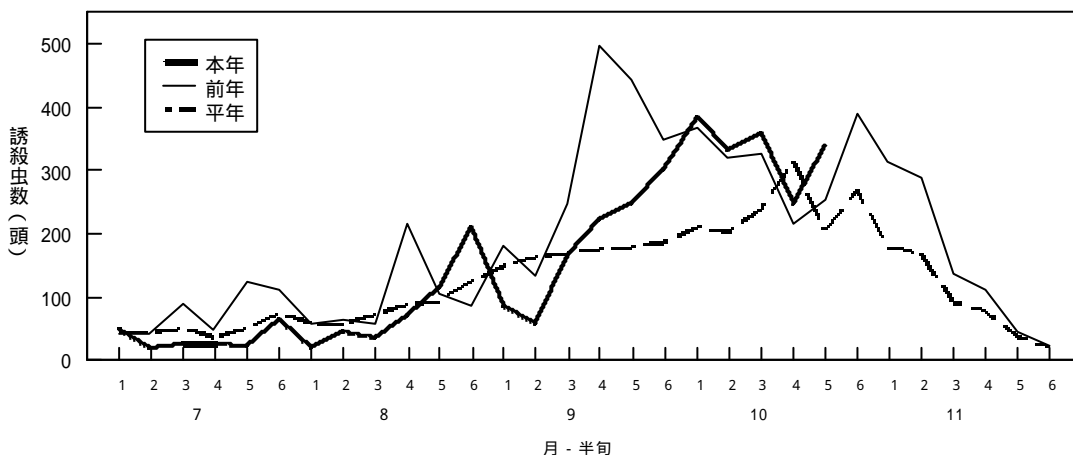


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）

6 野菜共通のオオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

平成13年10月31日 速報第8号を参照のこと

11月の気象予報（1か月）

（予報期間10月27日～11月26日）

2001年10月26日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温、降水量および日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 10月27日～11月 2日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 11月 3日～11月 9日
この期間の平均気温は、平年より低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 11月10日～11月23日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
14.2	78.6	145.6	16.2	15.3	13.3

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び電話番号は下記のとおりです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）